

平成25年度 妙高市特別活動部 活動報告

部長 飯塚 裕

1 研究主題

「子どもたち一人一人のかかわりを重視した特別活動の実践」

2 研究の概要

妙高市では、小・中・特別支援学校の教職員で妙高市教育研究会を組織している。特別活動部会では、4月18日の春の一斉研修の部会の中で、各自が取り組んでみたいことについて聴き取り、研究の進め方を決めた。その後、研究主題を決めて各学校で実践に取り組んだ。

8月22日には、新教育課程の伝達講習があり、特別活動の実践の方向について確認を行った。そして、11月7日の秋の一斉研修日に特別活動部会を開催し、各自の実践レポートを持ち寄り、小グループでレポート報告会を行い、それぞれの実践のよさをKJ法でまとめた。その後、学級づくりについての講義を行った。11月7日に行った部会の様子について報告する。

3 研究の実際

(1) 実践レポート報告会の内容

- ①「動きづくり」の取組を通した学級集団づくり <特別支援学校>
- ②「みんなで遊ぼう」ゆうゆうタイム(児童会)の実践 <小学校>
- ③全校縦割り班によるなかよし遠足の取組 <小学校>
- ④部活動における取組 <中学校>
- ⑤縦割りおにぎり遠足の取組 <小学校>
- ⑥文化祭「さくらっ子体験活動」 <小学校>
- ⑦いいところカードの取組 <小学校>



(2) 学級づくり研修講義の内容

- ①講師：妙高市立姫川原小学校 教頭 飯塚 裕

②概要：日本の子どもたちは自尊感情が低い。先進諸国の中で最も低い。年齢が上がるほどその差が大きくなる。その要因の一つに欧米諸国が個別指導中心であるのに比べて、日本は学級集団を単位にした集団教育であることがあげられる。したがって集団のかかわりの中で、自尊感情を育てていくことが重要である。

その後、先行研究をもとに考案した自尊感情アンケート(「包み込まれ感覚領域」「社交性感覚領域」「勤勉性感覚領域」「自己受容感覚領域」からなる40問)の内容や捉え方、分析シートの活用方法、分析をもとにした活動紹介(各感覚領域を育てるための手だての紹介)を行った。

4 成果と課題

実践レポートは、それぞれの学校の特色が出ていた。特に小学校では、縦割り班活動を活用した活動紹介が多かった。社会性の育成を縦割り班活動を通して行っている。それぞれの学校で工夫している点を紹介し合うことで、各自の実践を振り返るいい機会となった。また、改めて教育活動を支える大切な活動であることを認識した。

他の部との兼務もあり、少人数の部会である。学級担任が少ないために授業研究の実施ができない状況がある。今後も少人数のよさを生かした研修内容を考えていく。